

○菊池直子\* 大野静枝\*\*

(\*県立盛岡短大, \*\*日本女大)

〈目的〉ブラジャーは整容ファンデーションの一つとして常用されており、着心地を検討する上で動作中における衣服圧変動を捉えることは重要である。これまでブラジャーの動作中の衣服圧変動については電気抵抗法を用いた報告例がある。衣服圧は人体の曲率や圧縮硬さによって測定値が大きく異なることは周知である。我々はエアバック方式を用い、人体側面から後ろにかけて密着するブラジャーフレーム部と肩にかかるストラップ部に注目し、異なったフレーム形態をもつ2種類について動作中における変動を捉えた。

〈方法〉被験者は2名である。測定部位は①腋窩中線とフレーム上辺が交わる位置、②腋窩中線とフレーム下辺が交わる位置、③ストラップがフレーム上辺に付く位置、④フレーム下辺に③を直下した位置、⑤肩のストラップ位置である。これらを左右それぞれに設定し、10カ所を一枚の試料の測定部位とした。動作は、前屈動作、左片腕上挙動作、右片腕上挙動作、両腕上挙動作、左ひねり動作、右ひねり動作の6種類である。各動作は4秒間の運動と静止状態を一組とし、これを6回繰り返し測定した。

〈結果〉動作開始に伴って、前屈動作では、部位①、③、④に衣服圧の増加傾向が認められた。腕の上挙動作では、腕を挙げる側の部位①に衣服圧の増加傾向が認められ、腕を挙げない側の部位①には動作の影響が認められなかった。部位④では片腕上挙動作の場合でも左右それぞれの部位に同様の衣服圧の増加傾向が認められた。上体のひねり動作では、上体をひねる方向と反対側に設定した部位④に衣服圧が増加する傾向が認められた。2種類の試料間では部位③に衣服圧が変動していく大きさの違いが認められた。